

ウムチョ ムィーザ通信

No. 48

ルワンダ語で「良い文化」の意味を表します。

～ルワンダで教育を考える～

NPO法人ルワンダの教育を考える会
理事長 永遠瑠マリルイズ



「ルワンダの教育を考える会」を支えていただいている皆様に感謝申し上げます。今日まで、ウムチョムィーザ学園のみを支援してきましたが、今後はルワンダの貧困地域にも目を向け、そこに暮らす子ども達の支援にも取り組むことを本年の総会で決定しました。このことに向けて今回7月31日から10月17日まで、ルワンダに長期滞在することが出来たことに感謝申し上げます。何が課題か現地での活動をとおして見えてきたことをご報告させていただきます。

まず、ウムチョムィーザ学園では、長年グラウンドがないことを行政からも指導されていましたが、今回おかげさまでグラウンドの整備そして初めての運動会を開催することが出来ました。先生方や生徒たちが連帯感を持って楽しむ経験ができたことは、このグラウンドの整備に動いて下さった岡本行夫氏・NTT docomoのご寄付を始め日本からウムチョムィーザ学園の教育の質を高めるために気に掛けて下さりご支援くださる皆さまの思いがあつてのことと先生方生徒を代弁して感謝の意を表します。さらに、このグラウンドを利用して子ども達から地域全体へ交流が深まれば幸いです。



学園から地域へ広める予定の「**小学校教員の算数指導力向上プロジェクト**」(JICA 受託事業)の校内研修授業が進んでいます。1年間を振り返ってみると、先生方が徐々に積極的に参加してきていることを感じます。先生方同士お互いの信頼関係が深まり、教室の中で子ども達の学びあう姿が確実に変化してきています。ただ、課題もあります。先生方の意識は変わっても、人に伝える技術の習得には時間がかかります。専門家やスタッフの力を借りながら確実なレベルアップのために、引き続きご協力ご理解をよろしくお願いします。



次に、ウムチョムィーザ学園のあるキミロンコ地区の最貧困地域の二つの中学校への昼食支援と小学校の一つで健康診断を始めています。

そして、今年の2月にギチュンビ地区のミヨベで出会った子ども達からはじまった**ギチュンビプロジェクト**について報告します。7月からミヨベの貧しい家庭の子ども達に1日1食約120人の子ども達に昼食と制服を提供させていただきました。さらにAMDAと岡山県の医師の協力による健康診断や歯磨き指導も実施しました。初めて自分の歯ブラシを持つ母親・字の読めない親もあり、今回は特に貧しい24世帯約104人の家庭訪問をしながら信頼関係を築くことから始めています。

私たちに出来ることは、人数把握のため行政と医療と住民を繋ぐこと。行政サービスを受けるにはまず第一に出生届を出すこと。そして今日の1食を継続することで明日の未来に希望が持てるように、自立して生活できるようにサポートしていきたいと思います。



NGOとして現地事務所を開設して約1年が経ちました。ウムチョムィーザ学園・キミロンコ地区・ギチュンビ地区と活動を広げてきました。学園運営支援から最貧困地域の昼食支援と健康診断・衛生指導そして自立支援等子ども達の未来のために何が出来るのか日本の皆様と一緒に考えていきたいと思っています。



NP0法人ルワンダの教育を考える会ルワンダ事務所からの報告

ルワンダ支援の会計報告

* 2017 / 11 / 13 現在時価換算による

単位：円

	ADESOC	キミロンコⅠ	キミロンコⅡ	ミヨベ	健康診断	グラント整備	計
2月		173,131	96,402				269,533
3月					214,669		214,669
4月				56,420	85,254		141,674
5月				9,798			9,798
6月				26,691	14,428		41,119
7月		173,131	96,402	1,603,130			1,872,663
8月	825,489			126,530		1,415,910	2,367,929
9月				148,906	184,492	673,854	1,007,252
10月				227,470	23,648	145,784	396,902
11月	606,295	173,131	110,174	62,248		220,246	1,172,094
計	1,431,784	519,393	302,978	2,261,193	522,491	2,455,794	7,493,633

※ 日本の円をルワンダへ送金すると、日々金額が変動するので、報告額を単純に比較できないので、おおよその金の動きとしてご理解願います。

1 ADESOC(ウムチョ ムィーザ学園)

学費の納入状況の報告

今回、学園からの申請を受け36名への支援を行いました。

納入状況	人数
100%	201
その他	20
0%	16



学園初の運動会



学園の研究授業

2 キミロンコⅠ

キミロンコ地区の中学校で貧しい家庭の子ども達に出している給食費



3 キミロンコⅡ

キミロンコ地区の中学校で貧しい家庭の子ども達に出している給食費

4 ミヨベ

ギチュンビ地区ミヨベの昼食費

5 健康診断

約1,200人が午前と午後の2部制で授業を行っているキミロンコ地区の小学校での健康診断



ミヨベの様子



6 グラント整備

ウムチョムィーザ学園のグラント整備



健康診断



学園のグラント整備

NPO法人ルワンダの教育を考える会ルワンダ事務所からの報告

考える会現地事務所 インターン 畑中直人より



ルワンダの教育を考える会の皆さま、初めまして。9月末からキガリでルイズさんの実家でホームステイをしながらインターンをさせていただいております。

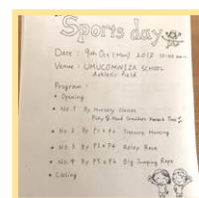
2017年10月9日に第一回ウムチョムィーザ学校運動会が執り行われました。

このプロジェクトの始まりは外交評論家兼 JICA 理事長特別顧問の岡本行夫さんが、今年3月に本学校を訪問されたことです。岡本さんご自身の寄付と NTTdocomo の支援により当初あった敷地を生徒たちが安全に広々と使える運動場にするため、地元の建設会社による工事が8月にスタートしました。私が来た当初はまだグラウンドの整備真っただ中で、整備用の岩などが置かれたままで生徒が練習する機会は限られていました。



したがって私たちはまず運動会のイメージを持たせることにしました。先生方に休日集まってもらい Youtube で日本の運動会の様子を見てもらいながら競技内容について説明し、その後グラウンドの一部を使い実際にリレーの練習をしました。生徒にも休憩時間に集まってもらい動画を見ることで理解を深めてもらいました。

運動会実施前の1週間は大忙しでした。当日使うリストバンド、バトン、宝探しの景品包み、メダルを作りました。NPO のアシスタントをいただいている望月優子さんに運動会のプログラムと司会進行用の台本を作成していただきました。この準備の段階からキガリ在住の JICA 青年海外協力隊員の方やその他の日本人の方に応援に来ていただいたり、地元の青少年に入場と退場の垂れ幕作成を手伝っていただいたりしました。また元陸上選手、及びそれに習う選手団が競技用のビブスやコーンなどを無料で貸し出してくださいました。



ビブス→ゼッケン

コーン



迎えた本番当日、開会式前に各学年が最後の練習をし先生達と打ち合わせをしました。そして生徒会長の子が開会宣言をし行進曲の音楽に合わせルワンダと日本の国旗をもった生徒たちが入場しました。幼稚園児がお遊戯、小学生は4チームの対抗戦で1.2年生が宝探し、3.4年生がリレー、5.6年生が借り物競争をおこないました。

私は運動会で音響と競技の得点付けを主に担当しました。クスカスポストなど日本で定番の曲を選曲し1つにまとめ、学校の情報の先生と協力しながら競技に合わせて曲を流しました。得点付けは生徒が各レース終了後も座って待機してくれず苦労しましたが、彼らが他の生徒を応援し盛り上がっている様子から非常に楽しんでいることがひしひしと伝わってきました。借り物競争の際には現地 JICA の所長さんや多くの観客の方にも参加していただき会場全体を巻き込んだ運動会となりました。



結果は黄色チームが優勝し表彰式では折り紙で作ったメダルをみんなに授与しました。先日の10月27日には運動会の報告会を実施し、NPO と JICA が作成したスライドショーと動画の上映をした後簡単なアンケート調査を行いました。調査の結果ほぼ全員が楽しみ、運動会からチームワークや運動の重要性など色んなことを学んだとの声をいただきました。

今回の運動会が支援者の皆様を始め多くの方のご協力を得て開催できましたことを、心より感謝いたします。滞在期間が残り3週間弱となりましたがインターンの仕事を頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。



2017年11月2日



ギチュンビ プロジェクト報告

望月優子



ルワンダの教育を考える会の皆さま。お元気ですか。現地NP0事務所で今やボランティアの枠を飛びぬけてお手伝いさせて頂いております。ルワンダでは、花が綺麗な 雨季真っ最中ですが、昨年よりNP0が緊急支援として関わり始めておりますプロジェクトサイトについて、ご報告いたします。私自身が、このプロジェクトに関わり始めたのは、2017年10月の訪問が初めてでした。自身の正直な感想を回想録として下記にご紹介させて頂きます。

10月13日金曜日、現地事務所スタッフ及びこれから関わるであろう計8人でギチュンビ市長とミヨベ地区を訪れる機会があった。



ミヨベという場所に着くまでの道路は、中国系建築会社が入り中国人らしき指揮官の下で舗装されている途中であった。指揮官以外の労働者はビブスを付けたルワンダ人。段々畑が急な山間に連なり、ルワンダの絶景として良くポストカードや映像に使われている棚田だ。間もなく行くと小高い丘の上に続く道を登る。この景色は、自分にとっては悲しく冷たい景色に変わってしまった。今写真を整理しながら振り返ってみても涙が込み上げてくる。



特有なバックグラウンドや歴史を経て、最貧困地域と言っているのだろう。キガリばかりが発展し注目されるが、国の細部には土や虫をも口にしてしまうほど空腹感との戦いの日々を生きている人が居る。丘を登り、まず目に飛び込んでくる幼稚園。牛の形を模倣した滑り台の遊具が印象的だった。外国人集団を見て一斉にゲートに集まってくる小さな子ども達。正直その子ども達が差し出してくる手を触ることを初めは躊躇してしまったくらい衛生状態にショックを受けた。鼻水をたらたららし、それが染み込んだようなシャツ。お腹はポッコリと飛び出し、手足は細く髪の毛の色素が落ちている栄養失調の特徴が明らかな子どもが多数。年齢に適さない身体の大ささ。土から感染し指先に寄生虫が付いている子もいる。サイズに合わない大人のシャツをすっぽりかぶってワンピースの様に来ている子どもも。頭皮には、カビの様なものが出来ている子もいる。オバマ君5歳。年中さんにあたるその子も栄養失調だった。話掛けると小さなか細い声で名前と歳を応える。全く笑わず表情を変えない。直後、その弟ダビデ君にも会う。小さいからか、飛び出たお腹はさらに大きく見えた。二人手を取り合う姿が切なくさせた。のちに、彼らの家を訪問しご両親にも面会するが、大人も笑顔が少ない。生活状況の過酷さが、人々をここまで陰い表情にになってしまう。長年生きてきた年老いた女性の訴えにおいては、その人の気性までも荒々しいものになってしまう現実が伺えた。



朝10時頃に訪れてから午後4時半にその集落を去るまでの時間が徐々に笑顔や言葉を交わす場面も出てきてようやく子ども達の中には、やや笑顔が見られる瞬間もあった。それでもほんの一瞬。標高が高く、気温も下がる。仕事は無く厳しい生活をみんなで脱する努力をし、可能性と希望を生み出すにはまだまだ長い時間と支援の必要性を感じた。

目の前に素晴らしい景色を見ながら私は、こんなに美しい自然をそしてこんなに酷い生活を同じフレームに収められる神は、なぜ私にこの経験をする機会を与えられたのだろうか。いっそ知らない方が良かった。今、頭の中はまだ整理がつかない。あの子ども達のささやかに見える笑顔を精一杯取り戻してあげたい。自分に使える力は最大限出したい。自分の人生と真剣に向き合いたい。ここまでが、今回の経験とある意味自分の正直な告白。

昨日、2回目の訪問を終え少しずつこの気持ちを消化しつつあります。この機会を生かせるように頑張りますのでこれからもよろしくお願いいたします。



2017年11月3日

Rwandaful Summer2017

毎年恒例になっている「Rwandaful Summer2017」
今年は、福島県教育会館で7月17日に開催しました。



第1部では早川千晶さんとマリールイズが、ケニアとルワンダでの活動を紹介、その取り組みから「アフリカの子どもたちの教育・未来について」をトークセッション形式で語り合いました。また、ルワンダの教育を考える会が取り組んでいるJICAの草の根技術協力プロジェクト、小学校教員の算数指導力向上プロジェクトを紹介し、今後も学校の教育力向上に力を入れていきたいと報告しました。



第2部では、地元福島のジャンベ愛好家「山地良平と仲間たち」によるアフリカの音楽（太鼓と歌、踊り）で会場が盛り上がり、ルワンダ大使・来場者の大人や子ども達もステージ上で音楽に合わせてアフリカの踊りを楽しみ、フィナーレを飾ることができました。終盤にはルワンダ大使から、これまで「ルワンダの教育を考える会」の活動を支援してきた福島の皆さんに感謝の言葉が述べられました。



福島市長・駐日ルワンダ大使・JICA二本松所長様を迎え、福島県内外、多方面から多くの来場があり、トークや音楽をとおしてアフリカを身近に感じることのできた1日となりました。アフリカでしか出会えない小物や雑貨、ルワンダコーヒー・紅茶を使用したお菓子などの提供があり、多くの方々がアフリカの文化、暮らしの一端に触れる機会となりました。

過去の悲しいイメージだけではなく、内戦から復興をとげたルワンダの明るい現在や未来へ。そして、未来を担う世界中の子どもたちへ平和のメッセージを伝えることのできた1日でした。

ご来場者数は、約150名。約30名のボランティアスタッフに支えられ、たくさんの皆様においでいただき、ありがとうございました。今回は500円のチケット売上げ及びJICA二本松・福島市国際交流協会様より助成金をいただいたことにより開催できましたことに感謝申し上げます。

〔会場からの感想〕

- ・話を聞いてルワンダのことがわかり、興味を持った
- ・トークセッションに感動！
- ・トークショーが素晴らしかった
- ・ライブも楽しく面白かった
- ・会場との一体感が良かった
- ・ブースも良かった
- ・自分の足で会場に来れるうちは何度でも来ます
- ・もっと多くの方に来てほしい内容だった
- ・終了時間は守ってほしい

〔会計報告〕

〔収入〕

チケット売上げ	37,500
助成金	164,502
考える会	217,161

計 419,163

〔支出〕

会場使用料	77,845
印刷代金	72,749
スタッフ昼食	18,612
出演者費用	185,700
交流会費用	35,100
消耗品費	5,157
菓子材料費	24,000

計 419,163

ルワンダ活動報告

～JICA 青年海外協力隊 佐々木 暁～

NPO ルワンダの教育を考える会の会員の皆様、初めまして。佐々木暁と申します。私は2015年から2年間 JICA の青年海外協力隊としてウムチョムイーザ学園で活動をして参りました。この場をお借りしまして皆様に報告させて頂きたいと思います。

活動編～どんなことをしていたの??～

私は幼児教育という職種でウムチョムイーザ学園へ派遣されました。大きな目的としまして情操教育を普及しましょう！先生達の質の向上を行っていきましょう！ということでした。幼稚園での現状は座学が中心。全てを変えていく事は現実的に難しいので、あそびを中心とした活動を現地の先生と共に保育に取り入れていきました。そして先生達には毎週ワークショップを行い、あそびが中心となる保育の提案、実践を行っていきました。物が無い現状と難しいことを行うと取り入れにくい事を考慮し、先生達と話し合いながら子ども達にとってより良い保育に繋がるように取り組んできました。今後も子ども達が笑顔一杯になる、よりよい保育が行われる事を願っています。



〈製作、音楽、ゲームは子ども達大好きで
とびっきりの笑顔で楽しんでいました！！〉



〈先生への折り紙・ゲームのワークショップと保育資料集・修了証書授与〉

生活編～どんな生活をしていたの??～

首都キガリに住んでいましたが、水は週に1、2回しか出ない、家の前の電柱から炎が出て停電になることが度々、毎日ゴキブリとの戦い（時々ネズミ）、洗濯は手洗いで2、3時間要する、、、と思い出すだけでも不便な事は沢山ありましたが、いつも上手く出来ない様子を見かねて手伝ってくれたセキュリティーガードのジャンポール。あまり現地語が出来なかった私のつたないキニアルワンダ語を彼だけは理解してくれていました。沢山のルワンダ人の方に助けて頂き2年間で過ごす事ができました。感謝です！！ルワンダは日本に比べ物質的には豊かではないですが、2年間で人の優しさ、心の豊かさを沢山の方から教えて頂きました。皆様も是非ルワンダへ！！



幼稚園のメンバー



ゴリラと一緒に



〈セキュリティーガードさんの家族〉

寝ている赤ちゃんの名付け親になりました

「ルワンダとの出会い」

団体名：RWAN-JA（新潟大学・新潟国際情報大学・新潟県立大学）

氏名：市川 麻衣

RWAN-JA はルワンダの子供たちの教育支援を目的とした、新潟県の大学生によるボランティア団体です。

私たちの活動は、ご縁のあったマリールイズさんをはじめとするルワンダの教育を考える会の皆さまと、会に協力する藤田純子さんにご協力頂きながら進めています。

活動目標は①ウムチョムィーザ学園の子供たちへの給食費支援②ミヨベに手洗い用 貯水タンクを設置③手洗い活動普及のための手洗いソング作成です。

具体的な活動ではコーヒーや RWAN-JA タオルの販売・募金活動を行うほか、マリールイズさんを新潟にお招きした講演会も開催致しました。

これからも人との出会いを大切に、目標達成に向けて邁進していきたいと思います！



←2017/5/27 に開催した講演会の集合写真

イベント名：【ルワンダ×日本】

新潟の若者がつなぐ!!

～今私たちにできること～



←2017/5/3～5 新潟県でゴールデンウィークに開催されたイベントブースでの写真 イベント名：万代アースフェスタ

学校名：仙台城南高校

氏名：田澤瑠学

私たちは、今年度新しくグローバル委員会として、国際理解などやワークショップなどで活動してきました。文化祭では「グローバル・カフェ」というブースを出展しました。具体的には、異文化理解や地球環境問題というグローバル・イシューを考えてもらうために商品を販売しました。その中で一番人気があったのは、「ルワンダコーヒー」と「ルワンダティー」そしてルワンダの生地のポーチ等でした。

来客者にルワンダを知ってもらうためにDVDを上映したり本校教員の伊藤恵先生がルワンダを訪れた時の撮影写真を展示しました。

また私たちもルワンダについて詳しく知らなくてはならないと思い、夏休み中に学校で「ホテルルワンダ」の映画を鑑賞し話し合い、意見を共有しました。

この文化祭を通して、ルワンダの国を知り魅力を感じました。語学を学習し、ルワンダを訪れたいと思います。



氏名：久光はな

私とルワンダとの出会いは地理の授業で「ルワンダの内戦」を習ったことが始まりでした。

調べていくにつれて歴史の悲惨さを痛感するとともに、ルワンダの女性たちの力について考えるようになりました。そして、震災から6年が過ぎ一見復興したように見える私の住む宮城がもう一歩進むためには女性の力が必要なのではと感じました。

そんな思いを胸に「ルワンダの今」に着目し、女性達の活躍に焦点を当て発表しました。その結果、日本地理学会高校生ポスターセッションに採択され、第60回生徒研究発表会では審査員特別賞を受賞しました。このような機会を与えて下さった先生、そして遠く離れたルワンダという国に感謝しています。





ルワンダ写真展開催



ルワンダ写真展&青年海外協力隊員帰国報告会
1月4日(木)~8日(月)開催予定 ※ただし7日休館
福島市チェンバ大町1F

入場無料

感謝の心をこめて
1年間の当会の
活動報告写真展

ウムチョムイーザ学園
の幼児教育に携わって
くださった佐々木さん
に異文化交流につい
てお聞きします!

カムカムシャムヒシ2018

お知らせ



新年会 — 1月14日(日) 福島市フォーズマーケット
ルワンダ料理を作りながら2018年の夢を語り合いましょう!



☆各種振替口座番号のご案内です!☆

会費振込・寄付・募金 (ルワンダへの支援をよろしくお願いします)

郵便振替口座: 02290-0-97126

加入者名: NPO法人 ルワンダの教育を考える会

会費 1口
5,000円



【ゆうちょ口座自動振込み寄付】 月一口500円から

ホームページ掲載 目標100名まで継続して募集します。現在55名登録

事務局では、事務局スタッフ及び各種イベント開催時、お手伝いくださる方を
随時募集しています。一緒に楽しみませんか。連絡をお待ちしています。

—編集後記—

今年はJアラート(全国瞬時警報システム)やオスプレイ・新燃岳の噴火・季節外れの台風等心配で空を見上げることが多かったように思います。来年は穏やかに迎えたいものです。 T.S

NPO法人ルワンダの教育を考える会

理事長 永遠瑠マリールイズ



〒960-8036

福島県福島市新町 8-21

TEL: 024-563-6334 FAX: 024-563-6335

ホームページ: <http://www.rwanda-npo.org>

メール: info@rwanda-npo.org